

比較文化学類

College of Comparative Culture

- 学士（比較文化）
- Bachelor of Arts

人材養成目的 / Program Educational Objectives

人類が築いてきた様々な文化を、「学際性」と「現代性」という問題意識のもとに比較・検討し、多様な学問的知識をもとに、社会的な課題についてそのコンテキストも含めて理解する力、様々なデータを読み解き、多様な知識と結びつけて批判的に検討する力、高度な外国語能力をもとに、多様な立場の人々と円滑にコミュニケーションする能力、そして自ら解決すべき課題を発見し、そこから現実的な解決策を導き出す能力を備えた人材を育成します。

<p>養成する人材像</p>	<p>社会的な課題をそのコンテキストも含めて理解でき、様々なデータを読み解き、多様な知識と結びつけて批判的に検討できる力、高度な外国語能力をもとに多様な立場の人々と円滑にコミュニケーションできる力、自ら解決すべき課題を発見し、現実的な解決策を導き出すことのできる力を備えた人材。そうした力を備えて、地球規模課題に取り組む国際的な企業の社員や機関の職員、社会的な課題の解決に取り組む社会起業家、多様な人々の暮らしを支える公務員、知を探究しその成果を共有できる研究職や学芸員などの専門職や中高の教員、社会的な問題を言語化し共有するジャーナリストや編集者などとして多方面で活躍できる人材。</p>
<p>卒業後の進路</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 地球規模課題に取り組むグローバル企業や国際機関の職員 - 社会的な課題の解決に取り組む社会起業家 - 多様な人々の暮らしを支える公務員 - 知を探究しその成果を共有できる研究職や学芸員などの専門職、中高の教員 - 社会的な問題を言語化し共有する、マスメディアや出版等に関わるジャーナリストや編集者

学位授与の方針 / Diploma Policy

筑波大学学士課程の教育目標に基づく修得すべき知識・能力（汎用コンピテンス）を修得し、かつ本学群・学類の人材養成目的に基づく知識・能力（専門コンピテンス）を修得した者に、学士（比較文化）の学位を授与します。

知識・能力（専門 コンピテンス）	1. 文化事象の理解力	文化に関わる学問を中心に、多様な学問の基礎的な知識と方法、およびそれぞれの中心的な課題について、そのコンテキストも含めて理解する力
	2. 文化的現象の 分析力	文献や史資料、諸データの内容とロジックを分析的に理解し、多様な知識と結びつけて批判的に検討する力
	3. 文化的課題への 対応力	自ら解決すべき課題を発見し、それを適切にコンテキストに位置付け、多様なデータを収集したうえで、現実的な解決案を導き出す力
	4. 国際的なコミュニ ケーション能力	高度な外国語能力を身につけ、それを通じて自らの思考を言語化するとともに、他者の思考を理解し、両者を適切につなぐ能力
	5. 国際的な主体性	多様な多様な立場の人々と円滑にコミュニケーションし、協働を通じて課題解決を行う力
学修成果の評価に 関する方針	<p>各授業科目、とりわけ語学等の必修科目では、担当教員がその科目を通して修得できるコンピテンスについて、修得状況进行评估します。</p> <p>4年次末には、単位取得を通じてコンピテンスの獲得状況を、卒業論文と口頭試問を通じて各コンピテンスが実際に身につけているかどうかを、それぞれ学修成果として総合的に评估します。卒業論文に関しては、中間発表会、および口頭試問をコース単位で丁寧に行うことで、学生が教育課程で目的とする能力を習得していることを確認します。</p>	

教育課程編成・実施の方針 / Curriculum Policy

教育課程の
編成方針**総合的な方針**

総合的な方針として、複数の学問領域を横断的に履修できる学際的で柔軟性に富む編成に留意し、学生ひとりひとりの問題意識とキャリア展望に対応する教育課程の構築を心がけます。また、国際的なコミュニケーション能力や異文化理解力を身につけるために、授業を含めた様々な機会を数多く提供するように努めます。

順次性に関する方針

また順次性に関する方針を以下のように定めます。1年次では主として入門的・概論的な科目や、共通科目の外国語を必修とし、複数の学問の基礎知識を広く身につけることを目指します。2年次では興味のあるいくつかの領域の専門導入基礎演習および専門科目を履修するとともに、国際コミュニケーション能力を確実に身に付けるために、中級の専門外国語科目を学び、領域やコースの選定に向けての指導を行います。3年次では領域・コースの所属を確定し、そこで提供されている専門科目や卒業論文基礎演習を本格的に履修します。4年次では卒業論文の制作を軸に、一つのテーマを巡って様々な文献の精読、フィールドワーク、ディスカッションを行い、教員との議論を通じて論理性を鍛えるとともに、学修の集大成である卒業論文を完成させます。コンピテンスと開設科目との対応については以下ようになります。

- 文化事象の理解力：文化に関わる学問を中心に、多様な学問の基礎的な知識と方法、およびそれぞれの中心的な課題について、そのコンテキストも含めて理解する力
科目区分：専門基礎科目（概論、専門導入科目）、専門科目（おもに講義、特講）
- 文化的現象の分析力：文献や史資料、諸データの内容とロジックを分析的に理解し、多様な知識と結びつけて批判的に検討する力
科目区分：専門科目（おもに演習、実習）
- 文化的課題への対応力：自ら解決すべき課題を発見し、それを適切にコンテキストに位置付け、多様なデータを収集したうえで、現実的な解決案を導き出す力
科目区分：専門科目（おもに実習、演習）
- 国際的なコミュニケーション能力：高度な外国語能力を身につけ、それを通じて自らの思考を言語化するとともに、他者の思考を理解し、両者を適切につなぐ能力
科目区分：専門科目（おもに語学科目、および海外諸地域を研究対象とした講義、演習）
- 国際的な主体性：多様な多様な立場の人々と円滑なコミュニケーションし、協働を通じて課題解決を行う力
科目区分：専門基礎科目、専門科目（学生の主体的参加、アイディアの共有、討論が求められる科目）

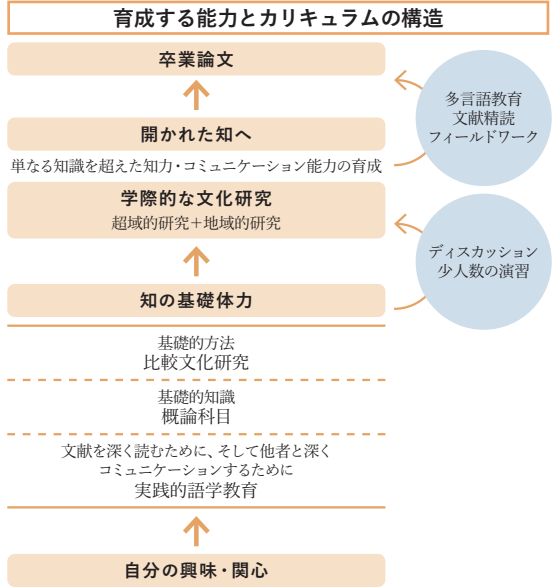
学修の方法
特色的な教育

教育方法

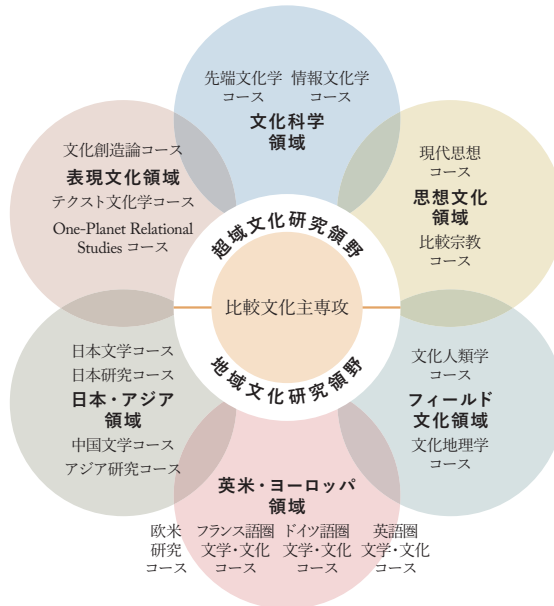
- 文化事象の理解力は、おもに講義科目を通じて修得します。
- 文化的現象の分析力は、講義科目に加え演習科目を通じて修得します。
- 文化的課題への対応力は、演習科目と実習科目を中心に修得します。
- 国際的なコミュニケーション能力は、おもに語学科目や講義科目、演習科目、および国際演習によって修得します。
- 国際的な主体性は、語学科目、演習科目、実習科目や国際研修、インターン関連科目によって修得します。

特色

- 大学院生の TA が積極的にアドバイスをすることで、学習意欲や研究の質向上に役立ってます。
- 大学院留学生の TA が積極的に授業に参画することなどを通じて、留学生との交流、共同学習の場を設け、「国際性の日常化」に向けた努力をします。
- 授業中やオフィスアワー等授業外での学生と教員間の双方向でのやり取りを促進し、学習意欲や研究の質を向上させます。



比較文化学類のコスモス



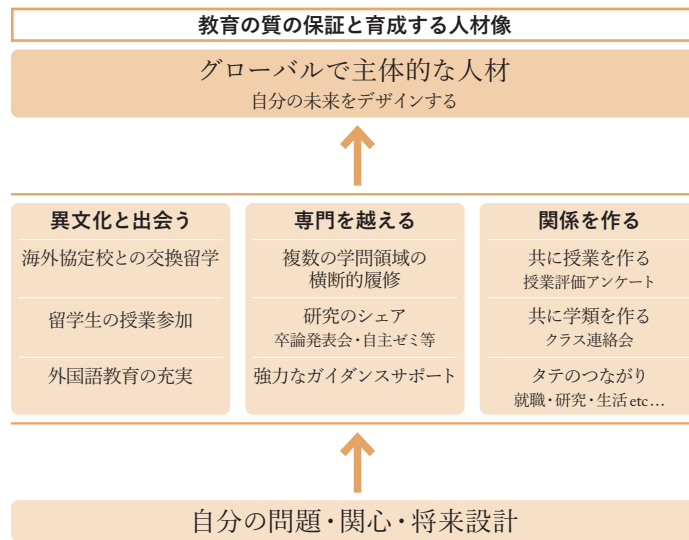
入学者受入れの方針 / Admission Policy

求める人材	<ul style="list-style-type: none"> - 自らの問題意識を出発点として、さまざまな学問領域に関心を寄せながら、文化・社会について広く柔軟に学ぶ意欲を持つ人。 - 異文化理解に裏付けられたグローバル・コミュニケーション能力を身につけようとする人。 - 海外経験・社会経験などを通じて得た問題意識を学問的に深めたい人。 	
入学者選抜方針	個別学力検査等前期日程	筆記試験（学力検査）を通して、文化・社会に強い関心と知識を持ち、学業遂行の上で必要な能力と知識を有する者を選抜します。特に勉学に対する意欲と論理的思考力、表現力を重視します。
	推薦入試	高校の評価書および筆記試験（小論文）・面接を通して、文化・社会に強い関心と知識を持ち、それを自分自身の言葉で表現する能力を重視して選抜します。
	AC入試	書類審査および面接を通して、文化・社会に強い関心と知識を持ち、特定の専門分野について具体的で個性的なテーマを設定し、そのアプローチと内容に関して独自の研究成果を挙げている者を選抜します。
	国際バカロレア特別入試	書類審査および筆記試験（小論文）・面接を通して、自立して世界的に活躍できる人材を育成するため、本学類の教育を受けるのに必要な基礎学力を有し、探究心旺盛で積極性・主体性に富む人材を受け入れます。
	外国学校経験者入試	第1種）書類審査および筆記試験（小論文）・面接を通して、文化系の学問に関する強い関心と論理的思考力を持ち、入学後の学業遂行に必要な知識と日本語能力を備えている者を選抜します。

学修支援体制 / Learning Support Framework

学修支援	<ul style="list-style-type: none"> - 全学レベルの取り組み（ライティングサポート）等を紹介し、積極的な活用を勧めます。 - ファーストイヤーセミナーで、大学での学修に必要な基礎的な学修スキルや知識について紹介します。 - レポートや到達度テスト等を中心に、授業の達成度に関わるフィードバックを行います。 - 学年ごとのガイダンスで学修の進め方を説明するほか、1・2年次では必要に応じてクラス担任が、3・4年次ではコース教員が面談します。クラス担任・コース教員と学生委員会・学類長・支援室が継続的に学生について情報共有し、必要に応じてサポートします。
------	--

<p>学生同士の 交流機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 新歓企画を通して、新入生や総合学域からの移行生が学類になじみ、学習意欲を高めるサポートをしています。 - 同様に、留学生に対して学類生をチューターとして雇用し、相互交流を促進し、学習意欲の向上に役立てています。 - オープンキャンパスや新歓行事を学生主体で企画・運営するものとする事で、主体的な参加を促し、学生間の交流を進め、学習意欲の向上に役立てています。 - 「比文プロジェクト」という学生主体の企画をサポートする仕組みを持っています。また学年ごとのガイダンスは学年全員が集まり、交流する機会となっています。 - 授業（演習・講義・卒論演習等）では積極的に学生間のディスカッションや協働作業を取り入れ、学年横断的な交流を促進し、研究の質の向上に役立てています。 - 大学院生を TA に雇用し、積極的に受講者にアドバイスをしてもらうことで、学習意欲や研究の質の向上に役立てています。
<p>教員との交流機会</p>	<ul style="list-style-type: none"> - 1・2年次の学生に対してはクラス担任との積極的なコミュニケーションを通して、学習意欲や研究の質を高めます。 - 学問探究チュートリアルの履修を勧め、そこで教員や他の学生と関わることで、自らの関心を広げ、研究意欲を向上させます。 - 1・2年次を中心に、クラス連絡会を通して学生の抱える問題を教員と共有し、学習意欲や研究の質を高めるための手立てを共に考えます。 - 3・4年次では、領域・コースでの卒業論文に向けた指導を行うなかで、学生と教員間の交流を促進します。 - オフィスアワーを周知するとともに、通常の授業においても、比較的少人数授業が多いことを利用し、授業中や授業外での学生と教員間の双方向でのやり取りを促進し、学習意欲や研究の質を向上させます。 - 新歓やオープンキャンパス等の学類のイベントに学生に積極的に関わってもらう中で、学生と教員のコミュニケーションをより円滑にし、学習意欲を向上させます。



教育の質の保証と改善の方策 / Approaches to Assuring and Enhancing Educational Quality

- カリキュラム・ガイダンス委員会において、学生の学修成果に関する評価を行い、教育課程の妥当性や指導の適切性を検証します。
- 毎年コンピテンス取得状況の確認を行うとともに、クラス連絡会を実施し、カリキュラムが教育課程目的や学生の状況にあっているかをチェックします。
- すべての授業に関して学生による授業評価アンケートを行い、これを確実に担当教員にフィードバックし、教育の質向上に反映させます。
- 全ての授業に対してコース・領域・カリキュラム委員と数段階でシラバスチェックを行うことで、授業内容が教育課程目的から見て適切か、学生に必要な情報を提供しているか、実情を反映しているかをチェックします。